**21 『百人一首一夕話』**

Ａ　　春すぎて夏にけらしのすてふの　　天皇

新古今集にもこの百人一首にも、衣干すてふと書かれたるは不審なる事なり。すべて歌の言葉にてふといふは、といふといふ言葉をつづめたるものⓐにて、恋をするといふ事を恋すてふといヘるがごとし。しかればこに眼前衣の干してある事を、①衣干すてふとませふべきにあらず。この故に百人一首の諸家の註釈、いづれもこの歌の解に様々のむづかしき説どもをつけながら、明らかに解き得たるも見えず。ここに②一つの考へあり公に院の第二度の百首とてあり。その冬の歌のうちに、

Ｂ　　雲晴るる雪の光や白妙の衣干すてふ天の香具山

と詠まれたり。この後京極殿は卿と同じ時代の人なるに、我が歌に持統天皇の御製を三句ながらそのままⓑにて③盗み詠み給ふべきにあらず。この後京極殿の歌の心は、かの万葉集にある持統帝の御製の、衣さらせり天の香具山と詠ませ給ヘるは夏の初めの景色なるを、今雲の晴れたる後の雪の光の真白に見ゆるにつけて、昔持統帝の衣さらせりとひし天の香具山の景色も、かやうにありたるにやと思ひ合はせて詠まれたるなり。干すもさらすも同じ心なれば、これⓒにて、④よく聞こゆるなり。されば新古今にもこの百人一首にも、後京極殿の歌と持統帝の御製とを一つに混じて、書き伝へたるものなるべく思はるるなり。

語　注

持統天皇＝第四十一代天皇。天智天皇ので、天皇の皇后。

御製＝天皇や皇族が作った詩文や和歌などのこと。

後京極摂政良経公＝藤原良経。藤原俊成・定家を後援し、新古今調樹立の基礎を築く。

月清集＝『月清集』。藤原良経自撰。六家集の一つ。

院＝後白河院。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓒの「にて」のうち、次の例文の傍線部と文法的に同じものはどれか。（4点）

月の都の人にて父母あり。

〔　　　〕

問2　傍線部①「衣干すてふと詠ませ給ふべきにあらず」とあるが、その理由を簡潔に述べよ。（10点）

〔

〕

問3　傍線部②「一つの考へ」の結論が示されている一文の最初の六字を抜き出せ。（6点）

〔　　　　　　　　　　〕

問4　傍線部③「盗み詠み給ふべきにあらず」について、

⑴主語を明らかにして口語訳せよ。（6点）

〔

〕

⑵Ｂの和歌のどの部分について言ったことか。該当箇所をそのまま抜き出せ。（6点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問5　傍線部④「よく聞こゆるなり」の意味として適当なものを次から選べ。（6点）

ア　よくできた歌なのである。

イ　よく世間に伝えられているのである。

ウ　よく光景を想像できるのである。

エ　よく納得がいくのである。

オ　よく誤解する者がいるのである。

〔　　　〕

問6　本文の内容に合致するものを次から二つ選べ。（6点×2）

ア　Ｂの和歌は、Ａの和歌と同じ場所で同じ季節を詠んでいる。

イ　Ｂの和歌は、万葉集の持統天皇の歌を念頭に置いて作られている。

ウ　「衣干すてふ」も「衣さらせり」も意味が同じなので、どちらにしてもよい。

エ　万葉集に持統天皇の歌を「衣さらせり」と記しているのは、他の歌と混ざった結果である。

オ　新古今和歌集や百人一首の持統天皇の歌が「衣干すてふ」とあるのは、他の歌と混ざった結果である。

〔　　　〕〔　　　〕

練習問題〈語の識別③「に」〉

次の傍線部「に」の説明を後から選べ。

①さらに同じものにあらず。 （徒然草）

訳　まったくおなじものではない。

（　　　）

②この玉取り得では、家に帰り来な。 （竹取物語）

訳　この玉を手に入れないでは家に帰るな。

（　　　）

③さらに つる人なし。 （方丈記）

訳　少しもそれらの品々に目をつける人はいない。

（　　　）

④すずろに涙こぼるるごとし。 （無名抄）

訳　どういう理由があるとも知らないがなんとなく涙がこぼれるようなものです。

（　　　）

⑤宮はもりにけり。 （源氏物語）

訳　宮様はお休みになられた。

（　　　）

ア　格助詞

イ　断定の助動詞「なり」の連用形

ウ　形容動詞の活用語尾

エ　完了の助動詞「ぬ」の連用形

オ　副詞の一部

【解答】

問1　ⓐ

問2　「てふ」では「という」という伝聞の内容を受けることになる点が、眼前の景色を詠むのにふさわしくないから。

問3　されば新古今

問4　⑴後京極殿が持統天皇の歌を盗んでお詠みになられたはずはないだろう。

　　　⑵白妙の衣干すてふ天の香具山

問5　エ

問6　イ・オ

【練習問題解答】

①イ　②ア　③オ　④ウ　⑤エ